

個別施策管理シート 対象事業年度 平成 24 年度

| | | | |
|------|----------------------|-------------|--------------|
| 政策 | 3 夢のふくらむ港 | 施策推進 責任者 | 総務部長 港営部長 |
| 基本施策 | 04 うるおいと魅力のある港湾空間の形成 | | |
| 個別施策 | 15 効果的な港のPR活動をする | | |

1. PLAN(目的・内容)

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------------------------|--|
| 目的 | サービスの対象者(誰のために) | 県市民、来港者、港湾関係者 | | | | | | | |
| | サービスの対象物(何を) | 名古屋港 | | | | | | | |
| | 意図(どういう状態にしたいのか) | 親しんでもらい、関心を高めてもらう | | | | | | | |
| 内容 | これまでイベントや情報発信によって名古屋港の知名度の向上、役割や魅力の周知などをしてきました。今後多様なニーズに対応するためロケーションを活かしたイベント等の誘致や情報誌への情報提供数を増やすなど、PR活動を効果的に行い、より多くの人に名古屋港に親しんでもらい、関心を高めていただけるようにしていきます。 | | | | | | | | |
| 目標 | 名古屋港の主なイベント(本組合主催)の来港者数49万人を目指します。 | | | | | | | 目標達成に影響する外的要因等 イベント時の天候、周年事業の開催 | |
| 成果指標 | 年度 実績等 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | 目標 H24 | 指標の説明(式) | |
| 名古屋港の主なイベント来港者数(管理組合主催) | 実績 | 万人 | 42 | 42 | 43 | 39 | 32 | 49 | みなと祭、名古屋港体験ツアー、帆船の一般公開等、キャラクターを活用したPR |
| | 達成率 | % | 85.7 | 85.7 | 87.8 | 79.6 | 65.3 | | |
| 名古屋港ホームページへのアクセス数 | 実績 | 件 | 2,862,567 | 2,662,943 | 2,731,989 | 2,462,000 | 2,351,024 | 2,700,000 | 21年度に「みなと祭」「スターライト」のコンテンツを別サーバーに移行したため、目標を変更 |
| | 達成率 | % | 106.0 | 98.6 | 101.2 | 91.2 | 87.1 | | |

2. DO(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

| 重点化 | 担当課名 | 事務事業名(コード) | 事務事業の概要 | 主な活動・成果指標 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 目標値(年度) | 平成24年度実施事業に基づく評価結果 | | | | |
|------------------|-------------------|-----------------------------------|---|----------------------|------------|-----------|-----------|---------------|--------------------|-----------------|--------------------|-------|---|
| | | | | | 実績 | 実績 | 実績見込み | | 平成24年度末までの状況※1 | 平成25年度以降の取組の方向性 | 備考(判断の理由・目標年次の変更等) | | |
| | | | | | 上段: 指標達成状況 | | | | 事務事業※2 | 成果※3 | | コスト※4 | |
| 下段: 事業費(千円・人件費込) | | | | | | | | | | | | | |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | 帆船等の寄港誘致と一般公開(個15事01) | 練習帆船・汽船、南極観測船等の海事海洋に関する船舶を招致し、一般公開、体験乗船等を実施します。 | 船舶一般公開見学者数(人) | 9,022 | 17,276 | 7,131 | 11,000(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 帆船の寄港が1隻(平成23年度2隻)となったことと合せ、午後より雨天となったことから、見学者が減少し目標値には達しませんでした。他の汽船では大きな変化は無く概ね順調に推移しています。 |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | 海の日名古屋みなと祭の開催(個15事02) | 海の日名古屋みなと祭協会の事務局を担当し、総会の開催、各行事の調整、警備計画の作成等を行います。行政、団体、地域が役割を分担し、実施します。 | みなと祭の来港者数(万人) | 39 | 30 | 27 | 40(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 日中雨天によりパレードが中止になるなど悪天候のため来港者が減少しましたが、27万人の入出があり、多くの人が待ち望んでいる事業であると考えます。 |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | 印刷物・広報番組・広報紙によるPR(個15事03) | 印刷物・広報番組・広報紙の作成により名古屋港情報を発信します。 | 広報番組視聴率(%) | 3.2 | 3.3 | 2.9 | 3.3(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 概ね目標値を満たしているため。 |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | 名古屋港のホームページの運営(個15事04) | ホームページに名古屋港の最新情報を掲載します。 | アクセス件数(件) | 2,731,989 | 2,462,000 | 2,351,024 | 2,700,000(継続) | 順調 | 継続 | ↖ | ↖ | 概ね目標値を満たしているが、ホームページについて情報端末の変化等に対応した発信方法の見直しのため予算措置を検討する。 |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | 名古屋港体験ツアーの開催(個15事05) | 港務艇「ぼーとおぶなごや2」により、海上から名古屋港の現状を紹介します。 | 年間参加者数(人) | 398 | 511 | 592 | 596(継続) | 順調 | 継続 | ↖ | ➡ | みなと体験ツアーの回数を増やしたことにより、より目標値に近い参加者数となった。参加希望者が多いことから参加機会の拡大を検討する必要がある。 |
| | (総務課) 広報・県市連絡調整担当 | キャラクターを活用した名古屋港のPR(個15事06) | 名古屋港のマスコットキャラクター「ポータン・ミータン」は、名古屋港開港100周年記念事業の一環として誕生し、現在も「名古屋港のお知らせ隊長」として活躍しています。親しみやすい「ポータン・ミータン」を活用し、幅広く名古屋港のPRを行います。 | イベント参加数(件) | 35 | 25 | 19 | 15(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 23年度より費用対効果を精査し参加イベントを削減する方向とした。効果を見極めつつ参加イベントの精査を実施している。なお、平成24年度は着ぐるみの補修と、参加記念グッズを作成したことから費用が増加したが、25年度は補修及びグッズ作成を行う予定がないことからコストは縮小とした。 |
| | (港営部) 振興課 | 客船誘致の推進(個15事07) | 名古屋港へ客船が来るよう誘致します。 | 客船入港隻数(隻) | 30 | 29 | 40 | 35(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 目標値を満たしているため。 |
| | (港営部) 振興課 | 雑誌「名古屋港」の発行(個15事08) | 名古屋港の関係情報・海外の港湾情報・船会社の動向など幅広い情報発信を行います。 | 発行部数(部) | 12,000 | 12,000 | 14,000 | 12,000(継続) | 順調 | 継続 | ➡ | ➡ | 継続的に目標値を満たしているため。 |
| | (港営課) 振興課 | 国際航路協会(PIANC)125周年記念事業の支援(個15事09) | 港湾・航路等の技術的課題に関する調査研究や開発途上国への技術支援などを行う国際航路協会(PIANC:本部ベルギー、1885年設立)の設立125周年の名古屋で開催されるアジア地区の記念事業に際し開催地事務局として関係者調整を行います。 | 記念事業全体プログラムへの参加者数(人) | 220 | | | 200(H22) | 完了 | | | | |
| | | | | 施策コスト(事業費合計) | 146,056 | 104,403 | 103,789 | | | | | | |

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。
注)目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として24年度の間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

| | | | |
|--|------|---|---|
| 平成25年度以降の取組の方向性 | | 平成25年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5) | |
| 区分 | 成果※3 | コスト※4 | |
| 拡大維持縮小 | ↗ | ➡ | <ul style="list-style-type: none"> すべての事務事業で概ね継続的に成果を達成しているが、取組の改善が見込めることから成果の方向性を拡大とします。 コスト面においてもこれまでの取組の成果もあり、構成する事務事業の多くを既に効率的に推進しており、維持とします。 |
| 今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 報道機関等への情報提供はその回数だけでなく、ニュースや記事として取り上げられるような情報の質の向上を図ります。 各種情報端末の急速な普及にも対応した、利用者ニーズに合わせたホームページの整備について検討を進めます。 「みなと体験ツアー」を引き続き実施すると共に、より幅広く県市民に海上視察をしていただく機会の創出を検討します。 当日の練習船等の一般公開情報を名古屋港水族館の巨大スクリーンで広報できるよう依頼します。 次期政策体系(26年度～)において、本施策及び事務事業構成の見直しの検討を行っていきます。 | | | |

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

| | |
|---|---|
| 前年度の評価結果を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 名古屋港体験ツアーの開催回数を増やし参加者増につなげました。 各種事業実施時にメディア等へ情報発信を行い、一定の効果は見受けられますが、記事等として取り上げてもらえるかは相手の裁量に委ねられており、露出度の観点からは必ずしも満足できる結果となっていません。 港への理解度を確認するため、できるものについてはアンケートを実施し、参加者からは概ね好評を得ています。より広く県市民等に港への関心を高めてもらうという政策目的を達成するために、更にイベント機会の創出や時代の変化へ対応を図っていく必要があると考えます。 政策体系として評価を行うことが適さない日常業務については、次期政策体系の策定において見直しが必要です。 | 構成事務事業の適正性(構成される事務事業で個別施策の目標を達成できているかどうか。できていない場合は改善策を記入) |
| <ul style="list-style-type: none"> 事務事業は概ね妥当であると考えます。 | |

個別施策15

